

御朱印

御朱印とは、全国の寺院や神社が発行する精密な朱色の手書きの証書である。大きな朱色の判と毛筆でその寺社の名前、日付、そして幸運な言葉や祈願が記されている。特別な小冊子御朱印帳に御朱印を収集することは、歴史的には宗教的な意味合いを伴う祈りの行為であるが、今日、多くの参詣者は記念品としてそれらを収集している。

もともと御朱印は巡礼者に参拝の記録として付与されていた。これは、巡礼者が写経し、それを寺社に奉納したことを示している。仏教では、写経することは、好ましい転生を得るために役立つ功德と見なされている。しかし、すべての巡礼者が自分で経典を写す能力があるわけではない。その代わりに、寺院にお金を納めて自分たちのために写経してもらったのである。この場合、御朱印は取引の記録の役目を果たした。経典を奉納することは江戸時代後期（1603年～1867年）にはあまり一般的ではなくなったが、御朱印を集めることは盛んで、現在でもほとんどの寺社で、少額の寄付と引き換えに御朱印が1つ以上発行されている。

圓教寺では、境内の三か所一摩尼殿、食堂、開山堂で6種類の異なる御朱印を発行している。摩尼殿で発行される御朱印は、「西国三十三所」の27番札所の訪問を記念している。観音菩薩への敬意を表すこの人気の巡礼は、1,000 kmに及び近畿地方の7つの県にまたがっている。一生の間に33か所すべてを参拝し、そして33か所すべての御朱印を集めた人は、極楽浄土に生まれ変わることでできる功德を積んだと考えられている。開山堂では、圓教寺特有の御朱印をお願いすることができる。それは、亡命チベット人に交じてインドで何十年も修行を積んだ僧侶によってチベット語で記されるものである。